

2024年度 第2回 環研カンファレンス

日時: 2024年12月20日(金) 13:30~16:15

場所: 南館第会議室(現地開催のみ)

演題1「神経発達症モデルマウスの社会性行動障害に関わる機能的ネットワークの同定」

植野 寛貴(環境医学研究所 システム神経薬理学分野 博士課程3年生)

本研究では、神経発達症の社会性行動障害を引き起こす神経メカニズムを明らかにするため、モデルマウスの社会性行動時の最初期遺伝子全脳マッピングとネットワーク解析を行った。その結果、前頭前皮質および感覚関連皮質が、他の脳領域をつなぐハブとして、社会性行動の制御において中心的な役割を果たしていることを明らかにした。(13:30-14:00)

演題2「神経系におけるシグマ1受容体の役割の解明」

木村 百合子(環境医学研究所 ラクオリア創薬産学協同研究センター 特任助教)

シグマ1受容体は脳の様々な部位に高発現し、主にER膜上に局在する事が知られているが、生理学的な機能は未だ明らかになっていない。本セミナーではこれまで携わってきたシグマ1受容体の研究(in vitro, in vivo)の話を中心に、研究留学やアカデミアから企業(ラクオリア創薬)への転身に関しても触れていきたい。(14:00-14:45)

演題3「肝脂質代謝を制御する分子基盤の理解と新規検出技術への展開」

谷貝 知樹(環境医学研究所 分子代謝医学 特任講師)

近年、我が国では脂肪肝や代謝障害関連脂肪肝など肝臓を中心とした代謝性疾患の患者が膨大な人数確認されている。本セミナーでは自己紹介も兼ねつつ、私がこれまで取り組んできた肝臓の脂質代謝メカニズムと病態の関わり、さらに現在取り組んでいる新たな肝疾患検出技術の開発などを紹介したい。(14:45-15:30)

演題4「病原性タンパク質 TDP-43 の生理的ホモ多量体化に着目した ALS 病態」

大岩 康太郎(環境医学研究所 病態神経科学分野 特任助教)

筋萎縮性側索硬化症(ALS)は運動ニューロンが傷害される致死的な神経変性疾患です。患者の病変組織では核内タンパク質の TDP-43 が細胞質で異常に凝集していますが、その上流メカニズムはわかっていません。正常なホモ多量体化ができなくなった TDP-43 が ALS を引き起こすメカニズムを概説します。(15:30-16:15)

これまでと同様に、気軽にご参加いただける会を考えておりますので、ぜひお越しください。